



からだ・暮らし・すこやかに

# 第190期 報告書

2009年4月1日～2010年3月31日

大日本住友製薬株式会社

証券コード 4506

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

第190期(2009年4月1日から2010年3月31日まで)の事業の概要をご報告申し上げるにあたり、皆様からの温かいご支援、ご理解に対し、まずは厚くお礼申し上げます。

当社は2007年度に策定した第一期中期経営計画の基本方針に則り、積極的に事業活動を展開してまいりました。その最終年度である2009年度は、地域密着型営業の推進等により国内収益基盤の強化を図るとともに、米国セプラコール・インクを買収するなど海外事業展開に向けた体制の整備を行いました。また、「総合業績改善プロジェクト」を実施し、全部門を挙げて一層の経費削減に努めるなど継続的な経営効率の追求を行いました。

2010年度は、第二期中計経営計画のスタート年度として、「国内収益構造の変革」、「海外事業の拡大と収益最大化」、「パイプラインの拡充」、「継続的経営効率の追求」といった重点課題に取り組んでいく所存でございます。

2010年度は、セプラコール・インクの業績が通年で寄与しますが、買収に伴う特許権やのれんの償却費等キャッシュ・フローを伴わない費用の負担もあり、会計上の利益は大幅な減益になると予想しております。このような状況ではあります。利益配分につきましては、2009年度と同じく、1株当たり年間18円の配当を継続する予定です。

これからも、たゆまぬ事業の発展を通して企業価値を持続的に高め、株主の皆様のご信頼に応えていく所存でございます。

株主の皆様におかれましては、これまでと変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

多田正世

代表取締役会長

立我健次郎

## INDEX

株主の皆様へ	1
経営方針	2
2009年度連結業績の概況	5
連結財務諸表	7
2010年度の見通し および配当金	9
研究開発の状況	10
トピックス	13
大日本住友製薬の概要	15
株式の状況	17
株主メモ	18

第二期中期  
経営計画特集  
(2010-2014)

～創造・変革 グローバル化の新たなステージへ～

当社グループは2009年度を最終年度とする3ヵ年の第一期中期経営計画の進展を踏まえ、2010年度を起点とする5ヵ年の第二期中期経営計画を策定し、本年2月に発表いたしました。

中長期ビジョン:

2007年の第一期中期経営計画策定時、15年後(2021年)の将来像として「グローバルレベルで戦える研究開発型企業として成長し、国内・海外事業が収益の2本柱」となっている姿を目指し、10年後(2016年)のあるべき姿を、「国内事業を強固な収益基盤として確立」「海外自販の進展」「将来像実現のための開発パイプラインの充実」とする中長期ビジョンを設定いたしました。

第二期中期経営計画:

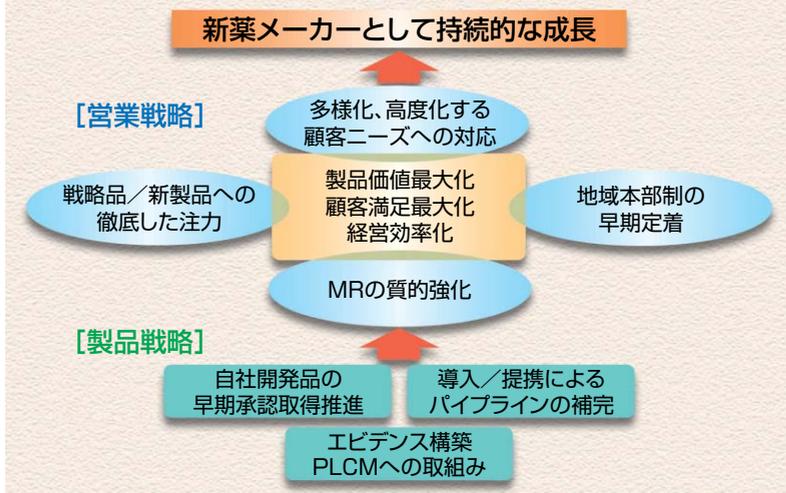
第二期中期経営計画においては、「創造・変革 グローバル化の新たなステージへ」をスローガンに掲げておりますが、これには、今後5年間に新たなステージにおいて創造力を高め、さらなる変革を進め中長期ビジョンの達成に向けて邁進したいとの志を込めております。



第二期中期経営計画  
基本方針

1. 国内収益構造の変革
2. 海外事業の拡大と収益最大化
3. 新薬継続創出に向けたパイプラインの拡充
4. CSRと継続的経営効率の追求
5. 挑戦的風土の確立と人材育成

## <国内収益構造の変革>



### ◆製品価値の最大化:

国内の営業重点領域は循環器・糖尿病、精神神経、癌・感染症とし、戦略品（アバプロ、ロナセン、プロレナール）や新製品に営業資源を集中いたします。

### ◆顧客満足の最大化:

地域密着型営業を進めるとともに、MR（医薬情報担当者）の質をさらに強化して、顧客ニーズへの迅速な対応を目指してまいります。

### ◆経営の効率化:

経費を有効に活用し、経営効率化を図ってまいります。

## <海外事業の拡大と収益最大化>

### ◆EUでの提携推進:

ルラジドンの提携推進を中心に検討を進めてまいります。

### ◆セプラコール・インクを中心とした北米事業展開:

ルラジドンをはじめ、今後予定している新製品の発売後早期最大化を図ってまいります。

### ◆中国事業の拡大:

既存製品の売上拡大と新製品の積極投入により2014年の売上高100億円の達成を目指してまいります。

### ◆北米、中国、EU以外の地域への進出も検討いたします。

## <新薬継続創出に向けたパイプラインの拡充>

### ◆中長期を見据えた研究領域：

「精神神経領域」を重点領域として、「スペシャリティ領域」をチャレンジ領域として創薬に取り組んでまいります。  
(詳しくはP.10をご覧ください)

### ◆新薬継続創出に向けた取り組み：

- ・次期戦略候補品の開発に向けた優先的投資
  - ・グローバル開発を基本戦略とした海外開発機能の充実
  - ・研究開発期間短縮に向けた諸施策の追求
- に取り組んでまいります。

### ◆提携・導入の推進：

セプラコール・インクの情報網やノウハウも活用して、積極的に提携・導入を推進してまいります。

## 第二期中期経営計画の経営目標

(単位:億円)

	2009年度 実績	2014年度 (目標)	2012年度 (参考)
売上高	**2 2,963	4,400	4,000
内医薬品事業	2,368	3,750	3,400
営業利益	356	700	300
EBITDA※1	564	900	700
研究開発費	514	700	650

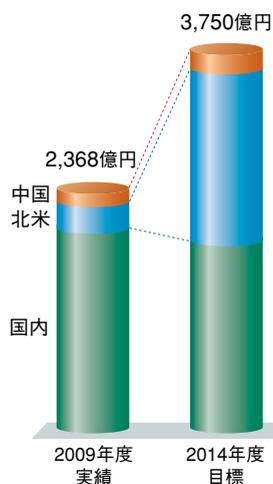
※1 EBITDA (Earnings Before Interest Taxes  
Depreciation and Amortization)  
：支払利息、税金、減価償却費控除前利益

※2 セプラコール・インクの2009年度全ての売上を単純合算  
すると3,880億円

(注) 為替レート90円/\$

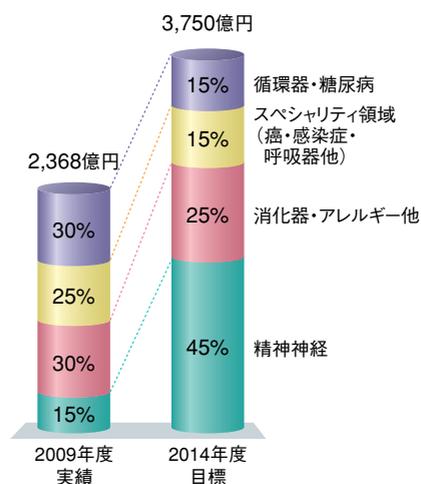
### <医薬品売上目標(地域別)>

国内・海外を収益の2本柱として  
確立いたします。



### <医薬品売上目標(領域別)>

ルラシドンや既存品の拡大により精神  
神経領域の伸長を図ってまいります。



# 2009年度連結業績の概況 (2009年4月1日～2010年3月31日)

## 営業の概況

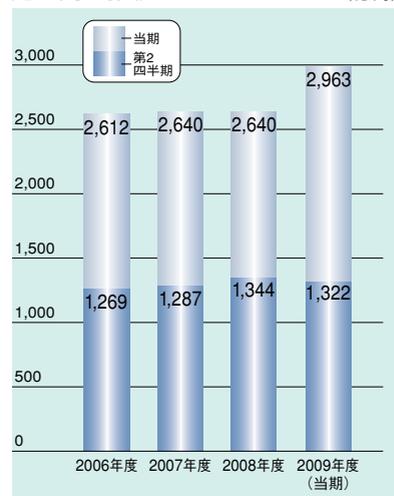
当期は、2007年2月に策定した第一期中期経営計画の最終年度であり、当社は積極的に事業活動を展開してまいりました。当期の主な取り組みといたしましては、地域密着型営業の推進やCNS（中枢神経系）領域の強化等により国内収益基盤の強化を図るとともに、統合失調症治療剤ルラシドン（一般名）の米国での早期立ち上げと事業価値の最大化、北米事業基盤の確立等を目的として、米国製薬企業セラコール・インクを買収するなど海外事業展開に向けた体制の整備を行いました。また、「総合業績改善プロジェクト」を実施し、全部門を挙げて一層の経費削減に努めるなど継続的な経営効率の追求を行いました。

販売面では、引き続き「アムロジン」、「ガスモチン」、「プロレナル」、「メロペン」に営業資源を集中するとともに、「ロナセン」、「アバプロ」、「トレリーフ」、「アムビゾーム」等の売上拡大にも注力いたしました。また、本年1月には肝細胞癌治療剤「ミリプラ」を新発売いたしました。

これらの結果、当期の売上高は2,962億61百万円（前期比12.2%増）、営業利益は356億24百万円（前期比14.3%増）、経常利益は338億37百万円（前期比7.8%増）となりました。また、特別損失として、人事制度改定に伴う補償金および投資有価証券評価損を計上した結果、当期純利益は209億58百万円（前期比4.9%増）となりました。

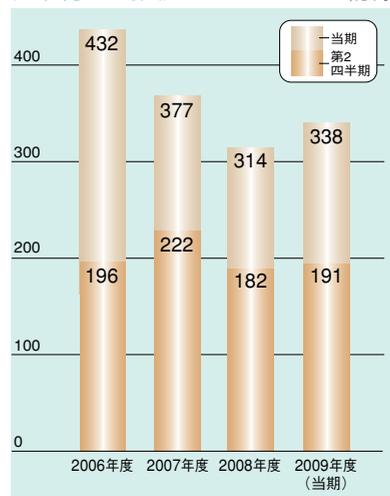
### 売上高の推移

(億円)



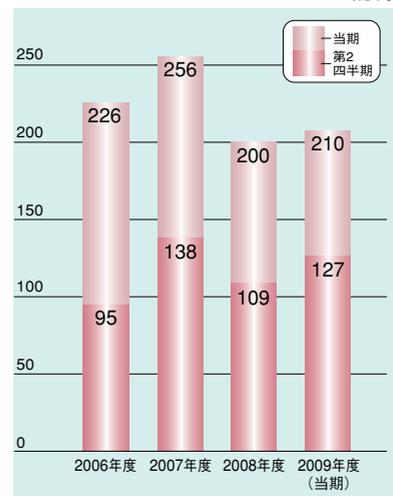
### 経常利益の推移

(億円)



### 純利益の推移

(億円)



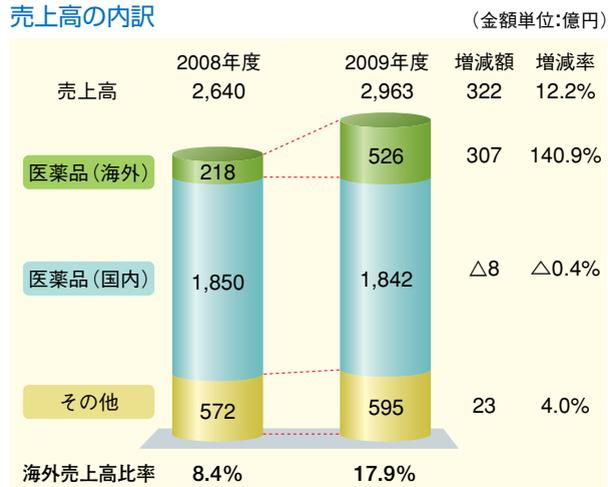
(注) グラフ上の金額は億円未満を四捨五入して表示しております。

## 事業の種類別業績

医薬品事業では、「アムロジン」は減収となりましたが、「ガスモチン」、「プロレナール」、「アバプロ」、「ロナセン」、「アムビゾーム」等の売上高は増加いたしました。また、当期より連結の範囲に加えた住友製薬（蘇州）有限公司の業績が通年にわたり寄与したことに加え、セプラコール・インクを含む米国子会社の第4四半期の業績が追加されたことにより、売上高は2,367億55百万円（前期比14.5%増）となりました。利益面では、増収や売上原価率の改善に伴う売上総利益の増加が、セプラコール・インク買収に伴う企業結合会計の処理等による販売費及び一般管理費の増加を上回り、営業利益は330億14百万円（前期比10.7%増）となりました。

その他の事業では、当期はインフルエンザ診断薬の販売が好調であったこと等により、売上高は595億6百万円（前期比4.0%増）、営業利益は26億10百万円（前期比96.1%増）となりました。

## 売上高の内訳



## 主要製品の国内売上高

(リポート控除前、億円)

品目 [薬効]	2008年度 通期実績	2009年度 通期実績
アムロジン [高血圧症・狭心症治療薬]	579	520
ガスモチン [消化管運動機能改善剤]	202	207
プロレナール [末梢循環改善剤]	148	154
メロペン [カルバペネム系抗生物質製剤]	148	147
ロナセン [統合失調症治療剤]	34	63
アムビゾーム [深在性真菌症治療剤]	31	40
アバプロ [高血圧症治療剤]	15	37

## 財政状態

### 【資産の部】

セプラコール・インクを含む米国子会社を新たに連結の範囲に加えたこと等により、総資産は前期末に比べ、2,354億48百万円増加の6,267億43百万円となりました。流動資産は前期末に比べ、240億15百万円増加の2,875億55百万円となり、固定資産は買収に伴う特許権やのれんの計上による無形固定資産の増加等により、前期末に比べ2,114億33百万円増加の3,391億88百万円となりました。

### 【負債の部】

買収資金の借入等により、前期末に比べ2,164億60百万円増加の2,832億59百万円となりました。

### 【純資産の部】

利益剰余金や評価・換算差額等の増加により、前期末に比べ189億87百万円増加の3,434億83百万円となりました。

なお、当期末の自己資本比率は54.8%となりました。

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(百万円)

科目	期間	前期末 2009年3月末	当期末 2010年3月末
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>		<b>263,539</b>	<b>287,555</b>
現金及び預金		21,990	13,823
受取手形及び売掛金		79,759	93,961
有価証券		34,500	51,184
たな卸資産		54,510	65,230
繰延税金資産		17,129	32,447
短期貸付金		50,000	25,000
その他		6,044	6,079
貸倒引当金		△ 394	△ 172
<b>固定資産</b>		<b>127,754</b>	<b>339,188</b>
<b>有形固定資産</b>		<b>69,104</b>	<b>74,083</b>
建物及び構築物		39,490	42,983
機械装置及び運搬具		11,048	12,761
土地		9,975	10,332
建設仮勘定		4,024	2,691
その他		4,565	5,315
<b>無形固定資産</b>		<b>6,407</b>	<b>199,482</b>
のれん		—	83,564
特許権		—	104,018
その他		6,407	11,899
<b>投資その他の資産</b>		<b>52,242</b>	<b>65,621</b>
投資有価証券		33,982	53,171
繰延税金資産		3,744	2,389
その他		14,617	10,158
貸倒引当金		△ 102	△ 97
<b>資産合計</b>		<b>391,294</b>	<b>626,743</b>

(百万円)

科目	期間	前期末 2009年3月末	当期末 2010年3月末
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>		<b>53,349</b>	<b>264,999</b>
支払手形及び買掛金		18,523	16,878
短期借入金		—	165,800
未払法人税等		6,298	8,571
賞与引当金		8,120	7,408
返品調整引当金		96	2,700
売上割戻引当金		412	15,709
未払金		—	33,395
その他		19,897	14,536
<b>固定負債</b>		<b>13,449</b>	<b>18,260</b>
退職給付引当金		9,253	9,797
役員退職慰労引当金		42	50
その他		4,153	8,412
<b>負債合計</b>		<b>66,799</b>	<b>283,259</b>
<b>純資産の部</b>			
<b>株主資本</b>		<b>319,245</b>	<b>332,315</b>
資本金		22,400	22,400
資本剰余金		15,860	15,860
利益剰余金		281,628	294,701
自己株式		△ 643	△ 646
<b>評価・換算差額等</b>		<b>5,162</b>	<b>11,167</b>
その他有価証券評価差額金		5,162	7,945
為替換算調整勘定		—	3,222
<b>少数株主持分</b>		<b>87</b>	<b>—</b>
<b>純資産合計</b>		<b>324,495</b>	<b>343,483</b>
<b>負債純資産合計</b>		<b>391,294</b>	<b>626,743</b>

**連結損益計算書**

(百万円)

科目	期間	前期	当期
		2008年度	2009年度
<b>売上高</b>		<b>264,037</b>	<b>296,261</b>
売上原価		103,741	112,262
販売費及び一般管理費		129,129	148,374
<b>営業利益</b>		<b>31,166</b>	<b>35,624</b>
営業外収益		2,970	2,251
営業外費用		2,741	4,039
<b>経常利益</b>		<b>31,395</b>	<b>33,837</b>
特別利益		1,054	—
特別損失		281	2,413
<b>税金等調整前当期純利益</b>		<b>32,168</b>	<b>31,423</b>
法人税、住民税及び事業税		14,090	13,999
法人税等調整額		△ 1,921	△ 3,540
少数株主利益		11	6
<b>当期純利益</b>		<b>19,987</b>	<b>20,958</b>

**連結キャッシュ・フロー計算書**

(百万円)

科目	期間	前期	当期
		2008年度	2009年度
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		<b>26,295</b>	<b>26,682</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 21,266	△ 151,838
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 11,844	131,929
現金及び現金同等物に係る換算差額		37	429
現金及び現金同等物の増減額		△ 6,777	7,203
現金及び現金同等物の期首残高		56,259	49,481
連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増加額		—	1,454
現金及び現金同等物の期末残高		49,481	58,139

**セプラコール・インク買収に伴う企業結合会計の処理**

買収に伴う資産等の評価ならびに2009年度および2010年度の業績への影響額は以下のとおりです。

(百万ドル)

	取得原価 配分前	取得原価 配分後	評価差額	会計処理 (償却方法)	2009年度の 税引前損益 影響額	2010年度の 税引前損益 影響予想額
特許権	—	1,197	1,197	品目毎に償却年数を設定	67	319
仕掛研究開発(無形固定資産)	—	59	59	資産計上(承認取得後償却)	—	—
たな卸資産	67	144	78	販売時に売上原価に計上	40	38
上記に対する繰延税金負債	—	△ 485	△ 485	—	—	—
その他の資産・負債(純額)	633	678	45	—	—	—
のれん	26	914	888	償却年数20年	10	46
合計	726	2,506	1,781		116	403

(注) 特許権には販売権等が含まれております。

# 2010年度の見通しおよび配当金

## 2010年度の見通し

(金額単位:億円)

	2009年度 実績	2010年度 業績予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	2,963	3,540	577	19.5%
営業利益	356	35	△ 321	△ 90.2%
経常利益	338	10	△ 328	△ 97.0%
当期純利益	210	0	△ 210	△ 100.0%
EBITDA*	564	520	△ 44	△ 7.9%
研究開発費	514	675	161	31.4%

\*EBITDA (Earnings Before Interest Taxes Depreciation and Amortization): 支払利息、税金、減価償却費控除前利益

(注) 為替レート90円/\$

### 【売上高】

国内医薬品については、戦略品、新製品を中心に売上高の拡大に取り組めますが、本年4月に実施された薬価改定の影響等により減収となる見通しです。一方、米国子会社の売上高が通期で寄与すること等、海外売上高が大幅に増加することにより、全体では3,540億円となる見通しです。

## 配当金

### 【基本方針】

将来の成長のための積極的な投資および内部留保とのバランスをとりつつ、業績に応じた適切な配分を実施いたします。

また、株主の皆様へ安定的な配当を継続することにも配慮いたします。

### 【利益】

引き続き継続的な経営効率の追求に取り組んでまいります。国内医薬品については薬価改定による減収の影響が大きく、減益となる見通しです。また、海外については米国子会社の利益が通期で寄与すること等の増益要因はありますが、セプラコール・インク買収に伴う企業結合の会計処理により、特許権やのれんの償却費等、キャッシュ・フローを伴わない費用を多額に負担する必要が生じます。

このため、全体では営業利益35億円、経常利益10億円、当期純利益は0億円となる見通しです。

### 【配当推移】

2009年度の期末配当金につきましては、1株当たり9円(年間18円)とさせていただきます。

2010年度の年間配当金につきましては、2009年度と同様の1株当たり18円の配当を予定しております。

	2009年度	2010年度(予定)
1株当たり年間配当金	18円	18円
連結配当性向	34.1%	—

当社グループは、精神神経領域を重点領域と位置づけ、国際的に通用する独創性の高い創薬に取り組んでおります。同領域に強みを持つセプラコール・インクを買収したことにより、精神神経領域の研究開発が一段と強化されました。さらに、アンメット・メディカル・ニーズ（未だ満たされていない医療ニーズ）が高く、研究・開発・営業の各分野に高度な専門性が求められるスペシャリティ領域をチャレンジ領域に設定し、革新的な医薬品の創製を目指してまいります。また、セプラコール・インクと協調して、社外からの開発品の導入にも力を入れてまいります。

研究初期段階では、ゲノミクス、プロテオミクス、メタボロミクス等自社保有の先端技術を活かした研究開発効率の向上に取り組むとともに、国内外の大学を含む研究機関等とのアライアンス、さらには産官連携プロジェクトへの参画も積極的に進めております。また、核酸医薬、抗体医薬に関しては、専門の研究グ

## 中長期を見据えた研究領域

**重点領域** 精神神経領域

**チャレンジ領域** スペシャリティ領域※

※アンメット・メディカル・ニーズが高く、高度な専門性が研究・開発・営業に求められる疾患

ループを配して研究を進めております。

研究後期および開発段階では、部門横断的なプロジェクト制のもと、部門間連携強化によりプロジェクトを推進し迅速化を図るとともに、ポートフォリオの最適化を行っております。加えて、製品価値の最大化を目指した剤形展開等の製品ライフサイクルマネジメントにも積極的に取り組んでおります。

## グローバル研究開発体制の整備

当社は2010年5月末に、当社とセプラコール・インクの研究開発部門の主要メンバーから構成する会議体「グローバルPMC (Portfolio Management Committee)」を設置いたしました。

グローバルPMCでは、当社グループの研究および開発に関する重要事項をグループ全体の戦略的観点から審議いたします。



## 2009年4月～2010年5月の新発売・効能追加

### 新発売

製品名	一般名	薬効	発売
ミリプラ	ミリプラチン水和物	肝細胞癌治療剤	2010年1月
メトグルコ	メトホルミン塩酸塩	経口血糖降下剤	2010年5月

### 効能追加

製品名	追加内容	承認
ガスモチン	経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸X線造影検査前処置の補助	2009年4月
アムビゾーム	「ムーコル属」等の適応真菌種 リーシュマニア症	2009年6月
メロペン	発熱性好中球減少症	2010年1月

## 統合失調症治療剤ルラシドンの新薬承認申請

当社は、統合失調症治療剤ルラシドンのグローバル開発を最優先プロジェクトと位置付け、経営資源を積極的に投入してまいりました。その結果、当初の予定よりも早い2009年12月30日（米国時間）にFDA（米国食品医薬品局）に統合失調症を適応症として新薬承認申請を行いました。現在、FDAによる審査が行われております。

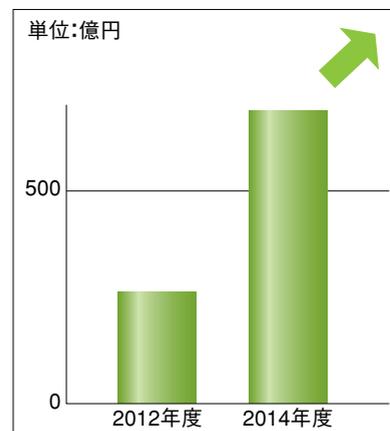
本剤は統合失調症の症状に治療効果を示し、かつ、体重増加や代謝異常といった副作用の少ない薬剤であると考えており、アンメット・メディカル・ニーズの残る統合失調症に対する1日1回投与の新しい治療薬として、貢献できると期待しております。さらに、双極性障害を対象として米国を含むグローバルの第Ⅲ相試験も実施中です。

### ルラシドンの特徴

ルラシドンは、独自の化学構造を有する非定型抗精神病薬です。これまでの臨床試験の結果、統合失調症に対して、プラセボに比べ有意に高い有効性を示しました。

また、良好な忍容性を示し、体重や脂質への影響といった副作用も限定的でした。

### ルラシドン 米国売上予想



※当社では、2011年の第1四半期に米国上市を目標にしております。

## 臨床開発の現況 (2010年5月10日現在)

	申請中	第Ⅲ相	第Ⅱ相	第Ⅰ相
国内	レバグリニド (糖尿病)	ルラシドン (統合失調症)	ラニレスタット (糖尿病合併症)  DPS-8153 (高血圧症/配合剤)	SMP-986 (過活動膀胱)  DPS-3235 (糖尿病)  DPS-3025 (喘息、鼻炎)  SMP-028 (気管支喘息)
海外	ルラシドン 米国 (統合失調症)  ステデサ 米国* (てんかん(併用療法))	ルラシドン 米国・欧州等 (双極性障害)  アムルピシン塩酸塩 中国 (小細胞肺癌)  オムナリスHFA 米国* (アレルギー性鼻炎)  ステデサ 米国* (てんかん(成人単剤))	SMP-986 米国・欧州 (過活動膀胱)  アルベスコHFA 米国* (喘息(小児:年齢範囲未定))	SMP-028 米国・欧州 (気管支喘息)  DSP-7238 欧州 (糖尿病)  DSP-8658 米国 (糖尿病)  SEP-227900 米国* (認知/疼痛/アルツハイマー病)  SEP-228432 米国* (注意欠陥多動性障害)

  新有効成分
   適応症追加等
 \*セプラコール・インクのパイプライン

- ・第Ⅰ相試験：同意を得た少数の健康成人において安全性を確認する試験
- ・第Ⅱ相試験：同意を得た少数の患者さんにおいて有効性、安全性、使い方を確認する試験
- ・第Ⅲ相試験：同意を得た多数の患者さんにおいて有効性、安全性、使い方を確認する試験

### 肝細胞癌治療剤「ミリプラ®」新発売

本年1月20日に肝細胞癌治療剤「ミリプラ®動注用70mg」（一般名：ミリプラチン水和物）および本剤専用の油性造影剤「ミリプラ®用懸濁用液4mL」を発売しました。「ミリプラ®動注用70mg」は、「ミリプラ®用懸濁用液4mL」に懸濁して肝動脈内に投与します。

肝細胞癌の標準的な治療法のひとつに、抗がん剤を油性造影剤に懸濁しカテーテルを用いて肝動脈内に投与する局所治療（リビオドリゼーション）があります。

本剤は、油性造影剤への懸濁性に優れています。また、肝動脈内投与後は腫瘍局所に滞留し、長期間に渡って白金成分が徐放され、全身への曝露は少ないとの特長を有しております。

当社は本剤の上市により肝臓領域における製品ラインアップを強化し、肝臓疾患のトータルケアに一層貢献できることを期待しております。



### カルバペネム系抗生物質製剤「メロペン®」の効能・効果の追加承認取得

本年1月20日に、カルバペネム系抗生物質製剤「メロペン®」について、新たに「発熱性好中球減少症」の効能・効果および用法・用量の追加承認を取得いたしました。

発熱性好中球減少症は免疫の低下した患者さんの重篤な疾患で、大半が何らかの細菌感染によるものと考えられています。本剤は広域な抗菌スペクトラムと強い抗菌力を有することから、成人に対してはカルバペネム系抗生物質として国内で初めて、小児に対しては抗菌薬として国内で初めて、発熱性好中球減少症の承認を取得いたしました。

また、発熱性好中球減少症に対しては、成人では海外と同量である1日3g（力価）の投与が可能となりました。

今回の追加承認により、本剤が国内の感染症治療にさらに貢献できる薬剤になると期待しております。



## 関連事業の再編

当社は、本年7月1日付けで、関連事業であるアニマルサイエンス事業およびフード&スペシャリティ・プロダクツ事業をそれぞれ会社分割いたします。

アニマルサイエンス事業は、新たに設立する「DSファーマアニマルヘルス株式会社」に承継させ、医薬品事業との連携を保ちながら、経営の自由度を高め、より機動的に事業を展開してまいります。

フード&スペシャリティ・プロダクツ事業については、食品、化成品を中心とした商社である当社グループの五協産業株式会社に承継させ、食品・化成品分野の研究・開発・販売一体型企業としてシナジー効果の最大化を図ってまいります。

当社は、両事業の再編によって、さらに成長・発展させ、当社のグループ力の強化を図ってまいります。

新会社の概要(2010年7月1日付け予定)

名 称	DSファーマアニマルヘルス株式会社	DSP五協フード&ケミカル株式会社
本店所在地	大阪市福島区海老江一丁目5番51号	大阪市福島区海老江一丁目5番51号
代 表 者	代表取締役社長 伊集院 哲	代表取締役社長 老田 哲也
事 業 内 容	動物用医薬品、動物用医療機器、飼料、飼料添加物の製造および販売等	食品素材、化粧品原料、医薬品原料、電子薬剤、コーティング材料、その他製品の製造、加工、売買および輸出入
従 業 員 数	89名	144名

## 中期環境計画の推進

中期環境計画に掲げる主な重点課題のうち、廃棄物の埋立量については前年度に比べて削減することができました。また、主要事業場におけるエネルギー使用量やCO<sub>2</sub>排出量は、前年度とほぼ同じ水準で推移いたしました。

### 1. 化学物質の大気排出量削減

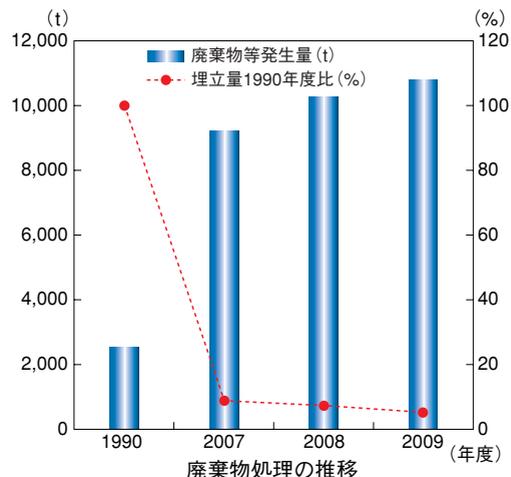
	2009年度実績	前年度比
ジクロロメタン排出量	16.2 (t)	12%増加
1,2-ジクロロエタン排出量	2.1 (t)	51%削減
クロロホルム排出量	5.5 (t)	34%削減

### 2. 省エネ、CO<sub>2</sub>の排出削減 (主要7事業所)

	2009年度実績	前年度比
エネルギー使用量(原油換算)	45,627 (kl)	0.8%削減
CO <sub>2</sub> 排出量	79,990 (t)	0.9%削減

### 3. 廃棄物の削減 (主要7事業所)

	2009年度実績	前年度比
廃棄物発生量	10,864 (t)	6%増加
リサイクル量	4,606 (t)	38%減少
廃棄物埋立量	26 (t)	27%削減



# 大日本住友製薬の概要

## 会社の概況 (2010年6月25日現在)

商号	大日本住友製薬株式会社 (だいにっぽんすみともせいやく) Dainippon Sumitomo Pharma Co., Ltd.
設立	1897年(明治30年) 5月14日
合併期日	2005年(平成17年) 10月1日
本社所在地	大阪府中央区道修町二丁目6番8号(〒541-0045) 代表電話：06-6203-5321
資本金	224億円
従業員数	4,686名(2010年3月31日現在)
事業内容	医療用医薬品、動物用医薬品、食品添加物、工業薬品、その他製品の製造および販売等



本社

## 役員一覧 (2010年6月25日現在)

### 取締役および監査役

代表取締役会長	宮 武 健次郎
代表取締役社長 社長執行役員	多 田 正 世
取締役 常務執行役員	小 野 圭 一
取締役 常務執行役員	岡 村 一 美
取締役 常務執行役員	野 口 浩
取締役 執行役員	竹 内 豊
取締役 執行役員	岡 田 善 弘
取締役	老 田 哲 也
常勤監査役	日 野 育 夫
常勤監査役	竹 田 信 生
監査役	青 木 敏 行
監査役	近 藤 誠 宏
監査役	内 田 晴 康

### 執行役員

常務執行役員	北 原 幸 雄
常務執行役員	古 谷 泰 治
執行役員	福 原 庸 介
執行役員	金 岡 昌 治
執行役員	石田原 賢
執行役員	野 村 博
執行役員	中 島 亨
執行役員	田 村 伸 彦
執行役員	濱 中 三 郎
執行役員	新 川 慶 弘
執行役員	大 江 善 則
執行役員	池 田 善 治

## 企業インフォメーション

連結従業員数：7,407名

### 国内事業所

本社、東京支社、大阪総合センター、  
東京事業所、全国25支店、  
鈴鹿工場、茨木工場、愛媛工場、大分工場、  
総合研究所、大阪研究所、  
東京物流センター、神戸物流センター

海外連結子会社  
住友制薬(蘇州)  
有限公司

海外連結子会社  
大日本住友製薬  
アメリカホールディングス・インク、  
セプラコール・インク

### 国内連結子会社

五協産業株式会社、  
DSファーマバイオメディカル

### 主な連結子会社(2010年3月31日現在)

	国内		海外	
	五協産業株式会社	DSファーマ バイオメディカル株式会社	セプラコール・インク	住友制薬(蘇州) 有限公司
設立年月	1947年10月	1998年6月	1984年1月	2003年12月
決算期	3月末	3月末	12月末	12月末
持株比率	100%	100%	100%	100%
従業員数	73名	67名	2,068名	413名

# 株式の状況(2010年3月31日現在)

<b>株式の数</b>	発行可能株式総数	1,500,000,000株
	発行済株式の総数	397,900,154株

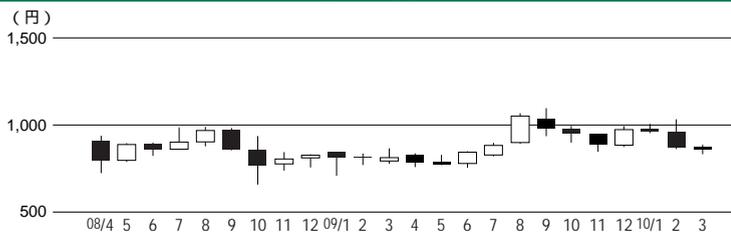
**株主数** 18,702名

大株主	持株数 (千株)	持株比率 (%)
住友化学株式会社	199,434	50.20
稲畑産業株式会社	27,282	6.87
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	13,552	3.41
日本生命保険相互会社	10,530	2.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,867	2.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	7,000	1.76
住友生命保険相互会社	5,776	1.45
ニッセイ同和損害保険株式会社	4,928	1.24
大日本住友製薬従業員持株会	3,310	0.83
JPモルガン証券株式会社	3,277	0.82

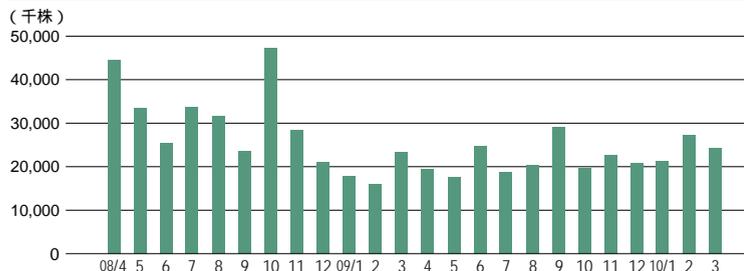
(注)持株比率は、自己株式(584,644株)を控除して計算しております。

## 株価および株式売買高の推移(東京証券取引所)

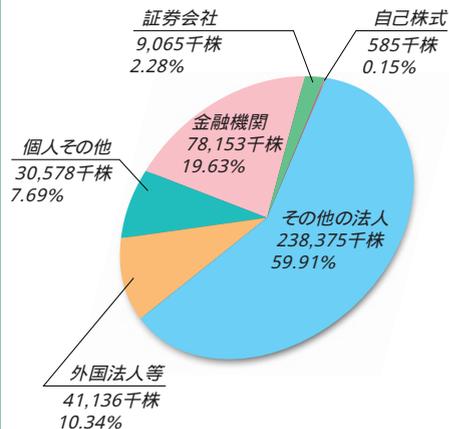
### 株 価



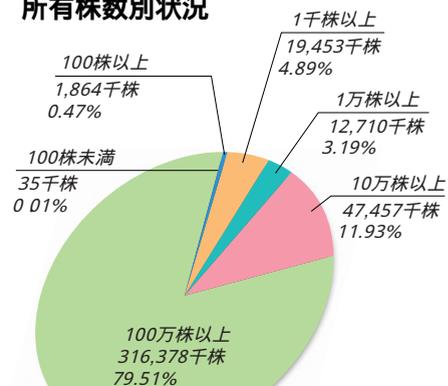
### 株式売買高



## 所有者別状況



## 所有株数別状況



事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 基準日	毎年6月開催 定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告 当社ホームページ ( <a href="http://www.ds-pharma.co.jp/">http://www.ds-pharma.co.jp/</a> ) に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 および 特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所 (郵便物送付先)	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-176-417
(インターネットホームページURL)	<a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html</a>
上場証券取引所	東京・大阪
証券コード	4506

#### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

- ・証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。
- ・証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先(0120-176-417)にご連絡ください。

#### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。  
特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先(0120-176-417)にお願いいたします。

#### 【単元未満株式の買取・買増請求のお取扱いについて】

- ・株券電子化後に証券会社の口座で単元未満株式を保有されている株主様は、お取引の証券会社宛にお問い合わせください。
- ・株券電子化後に特別口座で単元未満株式を保有されている株主様は、上記の電話照会先(0120-176-417)にお問い合わせください。

家族の気持ちに、  
新しい薬でこたえたい。



あなたのからだを、気遣う。あなたのこれからを、気遣う。そんな家族の気持ちと同じ思いを胸に、私たちは、  
新薬の研究に取り組んでいます。必要な薬を、必要になるかもしれない薬を、いち早く準備し、安心と共に  
お届けできること。今も、ずっと先も、あなたとあなたの家族を支える力になる。それが私たちの薬づくりです。

大日本住友製薬株式会社  
大阪市中央区道修町二丁目6番8号  
(〒541-0045)  
<http://www.ds-pharma.co.jp/>



環境にやさしい植物性大豆油インクを  
使用しています。